

調査回答前の留意事項・回答項目

この度は、日本病院薬剤師会 学術第3小委員会のAS活動の状況調査及び活動事例および問題点の収集にご協力いただきありがとうございます。

ご記載いただく際に、下記をご確認ください。

なお、本調査により得られた結果は、日本病院薬剤師会学術第3小委員会で集約し、情報共有の目的で学会発表や日本病院薬剤師会雑誌を含む学術誌での公表を予定しています。その際に、回答者の施設名や個人の情報が公開されることはありません。

【回答項目および説明】

- 1) メールアドレス
- 2) 施設の所在地：施設の所在地を選択してください。
- 3) 施設名：正式な施設名を入力してください。
- 4) 病院種別：自施設の病院種別を選択してください。
- 5) 病床数：自施設の病床数に該当するものを選択してください。
- 6) 感染防止対策加算の状況：自施設に該当するものを選択してください。
- 7) AST への薬剤師の参加状況：自施設に該当するものを選択してください。
- 8) AS 活動の実施状況（回答内容に応じて設問が変わります）

AS 活動を実施している：具体的な活動内容（活動事例）などを入力してください。

8-1) 実施していると回答した施設：具体的な活動内容を入力してください。

8-1-1) 活動による成果がある：どのような成果があったのか教えて下さい。

8-1-1-1) 公表した：公表先を教えてください。

8-1-1-1-1) 未解決の課題があれば教えてください。

8-1-1-2) 公表していない：理由を教えてください。

8-1-2) 活動による成果がない：理由を教えてください。

8-2) 実施していないと回答した施設：理由を教えてください。

【注意事項】

Google アカウント（Gmail ログイン状態）で入力すると、入力途中の内容が下書きとして保存できます。今回、事例を記載していただくため、長文となり、一度の入力で完了できないことが予想されます。その場合には、Google にログインしておくことにより、次回フォームを開けば入力を途中から再開できます。しかし、Google アカウントをお持ちでない場合やログインせずに入力される場合の対処には、Microsoft Word などの文章作成ソフトで作成してから、“コピー&ペースト”されることをおすすめします。

【AS 活動事例・問題点】を記載する際のお願い

今回の目的は、AS 活動を行っている施設での取り組みを幅広く共有することで、AS 活動が開始できていない、あるいは活動は行っているが思うように成果が得られない等の悩みを持つ施設が少しでも前進できるようにすることです。

薬剤師や医師、臨床検査技師、看護師などを行っている貴施設の AS 活動事例を是非ご提供ください。また、成果が得られていれば、何がどう改善したのかについても記載してください。

取り組みの大小は問いません。1 つでも多くの事例を会員と共有できたらと考えています。

病床数に関わらず、広く取り組み事例を募集しています。さらに、AS 活動ができていないといった声や実践しても成果がでないといった声も是非教えて下さい。本委員会での検討や日本病院薬剤師会への要望などでも結構です。様々な意見をお寄せください。

【AS 活動事例の記載例 (8-1)】

<AS 活動内容>

当院では、人的不足から AST への専従薬剤師の配置が困難であり、感染症専門医も不在である。そのため、各病棟薬剤師と AST 担当の薬剤師が連携し、毎週カルバペネム系薬や抗 MRSA 薬など院内で指定した抗菌薬の使用患者をリストアップしている。また、専用フォーマットにそれらの患者の培養結果や直近の検査値など入力し、その使用方法が適正かどうかを週 1 回の AST ラウンドで判定している。さらに、その結果を毎月の院内感染対策委員会で上層部と情報共有し、薬剤師ができることを上層部とかけあいながら模索している。

<成果 (8-1-1) >

データはとっていないが不適切な使用が減っているように思う。

<未解決の課題 (8-1-1-1) >

積極的にコミュニケーションをとろうとする薬剤師が減ってきており、処方医師の思考過程などの把握が難しい時がある。病棟業務や調剤業務を行いながら、患者の抽出作業と適切性を判断することは非常に困難である。

<成果を公表していない理由 (8-1-1-2) >

データをまとめる時間も無く、学会発表や論文作成の指導者がいない。どのようにデータをまとめて良いのかもよくわからない。

【AS 活動を実施していないと回答した場合の記載例 (8-2)】

当院は、感染症専門医も不在であり、薬剤師数も少なく AST を起ち上げるだけの人員が割くことができない。また、効率良く特定の抗菌薬を投与された患者を抽出できるような仕組みもなく、薬剤部で調剤時に把握するしか方法がない。J-SIPHE などに参加したくても、事務部門が協力的でなく、データを提供してもらえない。周りに相談したくても、相談できる薬剤師もいない。